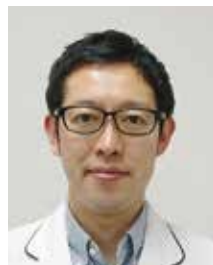


# ドクター + 教えて

## 便潜血検査を受けるだけで 大腸がんで亡くなるリスクは減るのです

磐田市立総合病院 消化器内科 科長 <sup>やま</sup> <sup>だ</sup> <sup>たか</sup> <sup>のり</sup> 山田貴教



大腸がんは早期に発見して治療すれば、ほぼ治癒が可能ながんです。しかしながら、日本におけるがんの臓器別統計では、大腸がんを患った患者さんの数は1位、死亡数は2位となり、急速に増加しています。

予防法については、

いまだにその効果は部分的であり、完全には防げません。治療も大腸カメラや腹腔鏡による負担の少ない手術も普及してきていますが、進行例では根治が難しくなることも少なくありません。

そこで、重要なのが早期発見であり、早期発見に大切な検査が便潜血検査です。皆さんは便潜血検査を毎年受けているでしょうか。便潜血検査は大腸がんでの死亡リスクを減らすことが科学的にも証明されている検査です。便潜血検査陽性の方の20〜50人に1人は大腸がんが発見されます。

また大腸がんでなくとも、切除した方がよい大腸ポリープが3分の1から半数の方に発見され、このがんになる前の大腸ポリープを大腸カメラで切除することで、大腸がんで亡くなる方が減少することも大規模な試験で証明されています。

当院独自で行った研究では、症状が出てから検査を行った患者さん比べ、便潜血検査において発見された患者さんの方が、予後（亡くなるまでの期間）が長いことも示されました。

磐田市の大腸がん検診受診率は46%です。全国平均の25%に比べれば高いものの、さらなる向上により磐田市の大腸がんによる死亡率は下げることができそうです。この取り組みには、市民の皆さんのご理解が重要です。一緒に取り組み、日本一大腸がんが治る市を目指しましょう。

vol.72

### 見えない心が働くとき

ふれあい交流センター センター長

金子豊二 かねことよみ

最近、「付度（そんたく）」という言葉がマスコミをにぎわせています。また、「斟酌（しんしゃく）」も比較として扱われる場合があります。どちらも聞き慣れない言葉です。

辞典を引くと「付度」は、「他人の心を推し量る」です。推し量るとは、「ある事柄をもとにして見当をつける（推測する）」という意味になります。「斟酌」は、「推し量った上で、それをくみ取って何か処置をすること」の意味です。

この二つの意味をみると、元は相手のことを思い、より良い方向へ向かうための手段・手立てを考えていこうとする、前向きな心の動きを表すように思われます。

以前のコラムで心の発達について触れましたが、小学5年の保健学習では、心は脳内（大脳）の働きであると学びます。その後、年齢が進むにつれて多くの人の関わりや経験の中で、感情を豊かにし自分の感情をコントロールすること、人との上手な付き合い方を学んで、成長・発達していきます。

大人である私たちは、一人ひとり性格があり、さまざまな心の傾向が確立しつつあります。何気ない日常の行いや言葉は、自分の心（脳）が、その都度瞬時に判断し、対応して発せられているのです。その対応が他人のことを思いやり、相手の気持ちをくみ取ったものになっているかを振り返ることは少ないのです。

相手に寄り添って対応しているつもりでも、本音の部分で好ましく思っていない場合、知らないうちに相手が哀しくなるような言葉遣いになったり、冷たい視線となつて相手に向かったり、横柄な態度、行動をとったりすることにつながることも考えられます。このように見えない心は、時として自分にも見えていないところで反応しているのでしょうか。

何歳になつても自分の見えない心を成長・発達させていくことができれば、「付度」・「斟酌」の裏では、常に「心」は、良い傾向に働いていくのではないのでしょうか。

人権  
コラム